

## 【1】 小学部の基本的な考え方と教育課程の編成

### 〔1〕 小学部の基本的な考え方

小学部は、子どもたちが将来の社会的自立をめざすために、その基本となる事がらを集団生活をとおして身につけていくよう指導するところである。

小学部では、めざす子ども像を「友だちの中で、よろこんで取り組む子」とした。

「友だちの中で」とは、自分だけの世界から脱却し、友だちとかかわりを持って活動できるようにしてほしい。「よろこんで取り組む」とは、物事に興味関心を示し、生き生きと集中して取り組む力が育ってほしいという願いが含まれている。

また、基本的な教育方針を「遊びや学習に意欲的に楽しく取り組ませながら、日常生活の基本的な事がらを身につけさせる」こととして、子どもたちが「意欲的に」「楽しんで」「喜んで」取り組むことが大切だと考えている。

### 〔2〕 小学部の「生活を楽しむ」についての考え

子どもたちが、将来、社会的自立を果たすためには、「生きていくための力」（知識や技術の習得）だけでなく、「生きていこうとする力」（意欲・関心・態度の育成）も身につけていくことが大切である。たとえ障害のため「生きていくための力」を身につけることにハンディのある子どもであっても、「生きていこうとする力」が育っていれば、いきいきと生活することができ、より主体的に生活していくことができる。そして、「生きていこうとする意欲」は「生活を楽しむ」という経験の積み重ねが基礎となって培われるものである。

小学部は「生きていこうとする力」とともに「生きていこうとする意欲」を育て、「生活を楽しむ」経験を積み重ね、将来の社会的自立をめざす、基礎となる力を身につけていく大切な時期であると考えている。

発達段階から見ると小学部の子どもたちは、だいたい2歳から4歳半ぐらいまでの段階にある。自分づくりの段階に照らしてみると、自我の形成期から自制心の形成期の段階に含まれる。これを楽しみ方に言い換えれば、「楽しいことは楽しい。嫌なことは嫌だ」の段階から、「つまらなそうだけれどもやってみたら、案外楽しくなるかも知れない」という考え方ができつつある段階にあると言える。

#### (1) 小学部の段階

○今を充実させ、「心から楽しむ」体験を積み重ねる段階である。

子どもたちは、今の生活が充実し、「心から楽しむ経験」を多く積み重ねることによって、見通しや自信を持ち多少のことは乗り越えて、新しいことにも興味や意欲を持っていきける。そのためには、一人ひとりの子どもたちが今持っている考え方ややり方、生き方を尊重し、その子のよさや持ち味が生きるように、周りが支援していくことも大切である。

○得意なことや興味を持っていることを見つけ、「これなら自信がある」、「楽しめる」というお気に入り、しっかり作り育てていく段階である。

今持っているその子なりの楽しみを見つけ、それを得意なこと、自信を持てる内容にま

で高めていく。このことは、意欲や主体性を育てていくことにつながるであろう。

○楽しみを広げ、増やしていく段階である。

そのためには、子どもたちが「やってみよう」「できるだろう」と見通しや意欲を持ち最後までやってみる体験すること、やってよかったという満足感を持つこと、自信を持ってもっとしたいと思うことなどを大切にする。

## (2) 小学部の楽しみ方の実態

K男は、担任の先生と一緒に、いろいろな道具を工夫して、周りの先生に簡単な手品や変身ごっこを披露して喜び、今度はどんな遊びをしようかと目を輝かせている。いつもはおとなしいS子やR子は、カラオケやダンスになると俄然その力を発揮して、学部のスターになってしまう。T男はパソコンに、N男はビデオに興味を持っている。H子やA子はセーラムーンなどのキャラクターが大好きである。

このように、今もっている力で、それぞれの楽しみ方を持っているようにも思える。だが、問題がないわけではない。

K男は、ほとんどはよく知った大人とのかかわりの中でなら遊べるが、子ども同士の遊びはほとんど見られない。B男は、知らない人の前では、別人のように萎縮してしまう。つまり、2人とも大人に保護された環境の中でしか遊べない。S子やR子、T男N男などの楽しみは限られたもので拡がりに乏しい。

このように、自分から楽しむ力がなかったり、楽しむことが限られていたり、みんなと一緒に楽しむ力がなかったり、楽しむために必要な技能がなかったりする実態がある。

## (3) 授業づくりで大切にしたいこと

以上のような小学部の段階と実態とから、小学部の「生活を楽しむ」ことを発展させていくためには次のことが必要であると考えた。

- ・もっと子ども一人ひとりの個性を含めた発達と障害について把握し、その上で、子どもたちが自ら進んで活動すること（自己活動）を大切にする。
- ・自分で考えたり、選択したり、決定したりする過程（思考の過程）を大切にする。
- ・達成感や、満足感をもつ子どもを育てていくことを大切にする。（成就感）

## (4) 小学部の自己活動と支援

自己活動は、本来、自ら進んで活動することである。しかし、生活経験の乏しい小学部の児童は、初めからすべてを投げ出された条件の下で自分の考えを選択したり、自分の意思で行動したりするための力が十分に育っているとは言えない。従って、その子の思考の過程をくぐらせたり、自己活動を促すためには、周りからの多くの支援が必要である。

教師は、興味をそそる題材の選定や教材の準備、少し努力すればできそうな課題の設定や見通しを持たせるための手だて、やる気を促す言葉かけ等々のたくさんの配慮をしなければならない。与える題材や教材ひとつを取ってみても、子どもによっては、単純で短時間にできそうなものであったり、少しはつまずきを予想して、そこをくぐらせることがふさわしいものであったりする。しかし、小学部の段階では最終的には、自信や満足感や達

成感につなげていきたい。そして、それらはみな最終的には「成功する体験」を与えるものでありたいと思う。そのためには、どの段階でどのようなつまずきをするのか、つまずいた時のフォローをどうするのかを、個々の生活年齢・発達段階などに基づいて考え、見通しと意図を持ってその対応を準備しておかなくてはならない。

特に、「PLANの段階の支援」には、題材の選定やそれに寄せる教師の意図などが主に含まれ、「DOの段階の支援」には、実際に子どもたちが生き生きと取り組み成功感を持つための方策等が中心になる。

また、できるだけ子どもたちが「自分の力でできた」という満足感や自信を持つためには、支援場面には特に注意をはらいたい。「教師と子どもたちとの距離、教師の立つ位置、声かけの内容や声の大きさ、そのタイミング、指差し場面、教師の目線や表情、手の差しのべ方」等々、多くのことに配慮しながら「支援」していく必要がある。

(5) 家庭との連携

「生活を楽しむ」ためには、家庭との連携も不可欠である。例えば、小学部の子どもたちは学校で楽しかったことは、家庭でもやって見せ、家庭で楽しいことがあれば、学校に持って来て楽しもうとする。だが、子どもたちの力ではうまく表現できないことが起こる。こんな時、教師と保護者がうまく連携をとっていれば、子どもが何をしようとしているのか気持ちを損なわないで理解できるし、適切な支援も可能となる。また、課題の共通理解や、それぞれの子どもに応じた楽しみをさらに広げ、実生活の中で生かすことなど、家庭との連携には大切な要素がたくさんある。

[3] 教育課程の編成

この研究にあたって、年間指導計画と週時程表を検討したが、今年度は大きく変更するのではなく内容を見直していくことにした。

年間指導計画では、生活単元学習を中心として生活に結びついた事ながら楽しく意欲的に取り組みめるよう計画した。

週時程表(表-1)は以下のことを大切に編成した。

- ① 6年間という期間を考え、低・中・高のクラスの実態に合わせた編成とする。
- ② 生活のリズムを作るために、土曜日を除いて同じような生活の流れとする。
- ③ 朝は、日常生活の指導をそれぞれの組や児童の実態に合わせて行う。
- ④ 2校時は合同で学習する時間とした。
- ⑤ 3・4校時を生活単元の時間とし、ゆとりを持って指導に当たれるようにした。

(細川)

表-1 週時程表(小学部3組)

時間	曜日	月	火	水	木	金	土
8:40		登校・朝の生活					
9:05		学級活動	朝の会				生活単元学習
9:50		音楽(合同)	体育(合同)	遊びの時間	音楽(合同)	体育(合同)	学級活動
10:30		休憩				おやつ	休憩
10:45		自由遊び				タイム	生活単元学習
11:00		生活単元学習					
11:30		生活単元学習					
12:10		給食・歯磨き					
12:45		掃除・自由遊び					
13:30		生活単元学習		クラブ	生活単元学習		
14:15		生活単元学習		帰りの活動	委員会	帰りの活動	
14:30		生活単元学習			委員会		
14:55		帰りの活動			帰りの活動		
15:15		下校					